

1 経営理念

「**ウェルビーイングな学校をみんなで創る**」をモットーに、経営方針を全体で共有し、主任を中心とした協力・協働の組織的学校運営により学校の使命を果たし、家庭・地域から一層信頼される学校を目指す。

そのために、常に、改革意識を持って学校教育全体の向上を図るとともに、日々の教育指導や学校研究等を教職研修の場と捉え、計画的・継続的に行い教員の資質・能力の向上を図る。

<宮竹小学校が提供するもの>「**～がい**」につながる「**笑顔**」

- ・児童には 「向上」と「喜び」 =学びがい～学ぶ厳しさと楽しさ、やり切る強さ
- ・保護者・地域には 「安心・安全」と「信頼」を＝頼りがい～みやつこを育てる協働体・基盤
- ・教職員には 「責任・自覚」と「誇り」を＝働きがい～組織として稼働し成果を上げる

2 校訓

「**至誠 勇気 自治**」(大正4年校歌制定より)

- ・「至誠」は、誠を尽くすこと。**互いの幸せを考える**思いやりの心や行動を身につけること。
- ・「勇気」は、すべての人の前に拓がる可能性・未来に向かい、自分を信じて挑戦する精神。
- ・「自治」は、**自己調整力をきたえ、個として集団として、**よりよい生き方を切り開く逞しさ。

3 教育目標

「**一人一人が志を持って、能動的に「考動」し、アップデートし続ける「みやっこ」の育成**」

4 教育目標の具現化 <子どもと創る・みんなで創る>

(1) めざす学校の姿

- ・誰もが大切にされ学ぶ喜びが実感できる **登校したくなる学校**
- ・生涯にわたり能動的な学びを展開し **成長する力を育む学校**
- ・家庭・地域と協力して創る「**地域の誇り**」となる学校

(2) めざす教職員の姿 <情報共有・共通理解・共通実践の徹底>

子どもの心に未来を生き抜く灯をともし教職員・誰一人とり残さない温かさと厳しさを持つ教職員

- ・学校経営計画を理解し、その実現のために組織的な学校運営に**積極的に参画**する職員
- ・子ども一人一人を理解し育成する使命感を持つ。そのために**自己研鑽・切磋琢磨**する職員
- ・ワークライフバランスの取組の推進
豊かな教養・温かな人間関係：**笑顔のある職場**

(3) めざす児童の姿

「**ウェルビーイングな楽しい学校**」を創るのは自分たち！

- ㊦ ずから考え取り組む子
- ㊧ さしく思いやる子
- ㊨ ながりを大切にする子
- ㊩ ころと体を鍛えやりぬく子

(4) 児童の行動目標

<一人一人の笑顔のために「自分から」「みんなで」>

タフでポジティブなチャレンジャーズ

「何のためか」を意識した考動

大切なのは「結果より経過」

5 今年度の重点目標と方策

(1) 組織的な学校運営 <チーム学校の推進>

- ① 各部会の機能化と充実→共通理解・共通実践・教師の学び合い→ 組織的・機動的な学校運営の推進
- ② 目標を共有して連携・協働する「チーム学校」の実働化→ 諸課題の未然防止・早期解決につながる「報連相」
各取組・行事で「目指す児童の姿」と方法を具体的に共有する＝「みやっこ」の実現
- ③ 明快な方向付けによる「働きがい」のある職場づくり→ 効果的な働き方改革の推進

(2) 知 確かな学力を育む<主体的・協働的で深い学びの実現>

- 確実なねらいの達成につながる日々の授業改善、**学びの自己調整力の育成**
 - ・ 系統的・組織的で実効的な授業改善のPDCAとその積み上げ
 - ・ 「個別最適」で「協働的」な学びの一体的な充実による3つの学力（学びの自己調整力）の向上
 - ・ 朝学習から家庭学習までの連結による「知識・技能」の確実な習得



(3) 徳 豊かな人間性を育む <自治的活動の推進と心の醸成～信・任・認～>

- 「生徒指導の実践上の4つの視点」に留意した「信・任・認」による「みやっこ」の育成（プロアクティブな生徒指導力の向上）
 - ・ 子どもの変容(up・down)を見逃さない組織「全職員で全ての子どもを」
 - ・ 特別活動を中心とした自治的活動・交流活動の工夫による集団づくり
 - ・ 「生き方につながる領域（道徳教育・キャリア教育等）」の充実による豊かな感性・社会性の育成

(4) 体 心身の健康を育む <生活習慣の自律>

- 個々が目標をもち達成感と意欲を実感できる体育の授業づくりと「1校1プラン」の推進
- 望ましい生活習慣・健康保持のための学校・家庭・地域の連携・協働
(デジタルシチズンシップ教育の推進・心の自己調整力の育成)

(5) 家庭・地域との連携 <地域とともにある学校>

- 学校運営協議会との連携によるふるさとを愛する心の育成・『探究』的な学びの充実
- 「保（幼）－小－中」の連携による長期的な学校教育力の向上
- 専門教育機関との連携による個の尊重と伸長

2024年度：全職員総がかりの取組として必須なこと

共有された取組について、一枚岩となって徹底・積み上げる＝誇りと責任

- ① 明確で達成しがいのある課題・ゴールの設定と成功体験の積み重ねによる達成感の実感
 - ・ 確実なねらい
 - ・ 個の役割責任
 - ・ 成功体験の積み重ねによる達成感及び確実な成長の実感、向上心の高揚
 - ・ GIGAの充実
 - ・ ゴールまでの見通し
 - ・ 交流や協働の場の工夫・必要感
 - ・ 個別最適・協働的な学習の進化・深化、客観的な評価の活用
- ② 何のための行事・取組かを明確に＝ことばを大切に使える子に←言語活動とその目的・評価の明確な共有
 - ＝目的意識・相手意識を子どもと共有する 「何のために？」
 - ＝「Iメッセージ」の言える子に 「自分は～考える。～したい。なぜならば、…。」
 - ＝子どもを育てる視点を共有し、評価と指導を一体化する
 - 行事の計画・中間評価・ふり返しには
 - ・ ゴールの姿(つけたい力)を具体化したうえで、
 - ・ 子どもの成長とその理由、今後の手立てを 自覚化させる・認め合う・客観的評価の利用